

5. 地域医療教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2016年（平成28年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<金沢大学>

- 地域医療体験型教育プログラムの開発2ー地域で働く薬剤師の現状とその期待を知り、自らの将来を考えるー
 - ・学部生を対象として、医療従事者と薬剤師との連携が重要課題となる在宅医療やへき地医療について、連携構築を行いこれらの医療に関する授業プログラムの開発を図った。
- 薬物治療検討会
 - ・学部生を対象として、薬物治療に関する薬学類学生の発表と金沢大学附属病院などの各専門分野の臨床医師による最新の薬物治療に関する講義を地域薬剤師に公開して、薬剤師と共に議論を行った。
- 薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業の推進
 - ・学部生及び大学院生を対象として、本学薬用植物園や県内数カ所の薬草栽培試験地において、「薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業」を推進した。
- 地域薬剤師・薬学教員間連携コンソーシアムによる薬学教育の革新と臨床現場での課題解決（*）
 - ・学部生及び大学院生を対象として、地域薬剤師と薬学系教員の連携により、学生や地域の若手薬剤師に対する教育の推進と臨床現場での課題解決を目指して「金沢薬学革新コンソーシアム」を設立し、事業を行った。
 - ・本プログラムは、2017年度以降も継続して実施する。

<京都大学>

- 改訂モデル・コアカリキュラム対応型地域医療教育プログラム
 - ・学部生を対象として、従来症例検討などを行っていた授業「地域医療薬学」の内容を刷新し、在宅訪問など地域医療の最前線で活躍している薬局薬剤師を講師として招き、講義・演習形式の授業を提供した。

- ・医療実務事前学習において、附属病院看護部より講師を招き、在宅医療への貢献を目的としたフィジカルアセスメント実習を行った。

2) その他（大学としての取組等）

<岐阜薬科大学>

○ 改訂モデル・コアカリキュラムに沿ったポートフォリオシステムの構築

- ・学部生を対象として、改訂モデル・コアカリキュラムに沿ったポートフォリオシステムの構築を構築し、使用を開始した。

<岡山大学>

○ 岡山大学薬学部と神戸大学病院との教育研究連携事業（1）遺伝子多型と分子標的薬の治療効果および副作用発現の関連性に関する臨床調査研究

- ・本学部は、神戸大学病院薬剤部との教育・研究連携を進めており、その一環として、四宮准教授らが中心となって神戸大学病院と共同で実施している「遺伝子多型と分子標的薬の治療効果および副作用発現の関連性」に関する臨床調査研究を推進した。研究成果は、国際誌「Target Oncol.」に掲載された（2015年度）。
- ・岡山大学薬学部生が参加した神戸大学病院との共同研究「腎細胞癌における分子標的薬の治療効果とSTAT3遺伝子多型との関連性」の成果が国際誌「Med. Oncol.」に掲載された（2016年度）。

○ 岡山大学薬学部と神戸大学病院との教育研究連携事業（2）Single nucleotide polymorphismsとmTOR阻害薬の副作用発現との関連性に関する研究

- ・岡山大学薬学生らと神戸大学大学院医学研究科の学生らが中心となって実施した「Single nucleotide polymorphisms とmTOR阻害薬の副作用発現との関連性」に関する研究の成果を日本薬学会136年会（2015年度）で発表した。